特定非営利活動法人
サヘルの森　機関誌

# サヘル

SAHEL
ファナ特集号
2021. 10.

## ■ファナ地域の里山再生

榎本 肇

ファナ地域で活動を始めて 15 年目を迎えました。苗木配布で村人が自身で行う小さな林づくりは、そこここの村で生長し、目に見える形で点として残っています。こうして生長した樹木は、日除け屋根を作る建材を供給し、敷地で緑陰を与え、食卓に食料を届け、人々の生活に利用されています。これまで、森林資源を収奪することしかなかった彼らが、自ら育てた樹木を利用しているのです。また、これまで配布した苗の多くは、家畜の食害にあったり、乾期に枯れてしまったりとうまくいかなかった部分もありますが、その過程で、木を植えることが好きで、その後里山の再生に取り組むことになる「実践者」を見出すことができました。

配布苗で育ったバオバブ

バオバブの葉は大切なソースの材料になる

接ぎ木の技術

ズィズィフィス改良種は、接ぎ木が比較的容易な果樹、商品価値も高い

菜園に育つユーカリ

保護柵を完備した菜園の配布苗は生育良好

## ■実践者と地域苗畑

「実践者」は、地域で高い技術を持つ「地域苗畑主」に研修で木を育てる技術を学び、それぞれの所有する里山で、育苗し植え育てています。彼らは、苗木を与えられるだけでなく、自ら苗木を育て、まとまった数の樹木を植え育てることができるようになりました。彼らの植えた樹木は小さな面となりつつあります。また、接ぎ木の技術も学び、よりよい果樹の品種も育てることができるようになっています。こうした里山再生技術を持った「実践者」が地域のそこかしこに生まれ、自ら実践することで周りの人たちを感化し、少しずつ里山再生が進んでいければと考えています。

今年は、里山再生の活動をさらに他の村にも広げていこうと、里山再生の研修に拾いきれなかった村人を「新実践者」として、今いる「実践者」の経験と知識を共有してもらいながら、里山再生の取り組みを始めています。この乾期には苗畑を設置し、来年の植栽に向けての育苗を始めます。

新実践者とサポートする実践者

育った実践者はマリ人スタッフに同行して、新実践者と作業を共にする

## ■住民の需要に応える里山再生

「実践者」が行う里山再生の実践の中で、多くの林産物を生産しています。まず、筆頭にあげられるのは、生長も早いユーカリです。最近は、地方都市の人口も増え、建設ラッシュが続いています。その際に必要なのがコンクリートの屋根が固まるのを下で支える建築補助材です。まっすぐ育つユーカリ材が適しており、ファナ近郊の町でもそのレンタル業者が生まれ、実践者のもとにユーカリ材を買い求めに来ています。

建築補助材

モプチ地域の屋根のユーカリ材

そのほかにも、ズィズィフィスの改良種の実を、近くの町で売るために、女性が実践者の農園に買い付けに来たり、市場で枝葉が家畜の飼料として高値で取引される在来種を実践者が育苗して育成し始めたり、生産した林産物から現金収入を得始め、彼らのモチベーションにもつながっています。

ファナではまだ幹線道路から離れた奥地の森林から薪炭の供給がありますが、それらの資源も早晩枯渇していきます。マリ中部のモプチや北部のトンブクトゥなどでは、既に家の梁や横に渡す横木に使う在来種の建材が枯渇し、育林したユーカリ材に置き換わっています。近い将来、ファナ地域でも同様なことが起きるでしょうし、薪炭材にも使われるようになるかもしれません。地域で持続的に暮らしていくためにも、「実践者」の里山再生は価値あるものとなっていくに違いありません。

都市住民の家畜の飼料

## ■新試験地での取り組み－土壌浸食を防ぐ

石組みの効果

雨裂に配置した石組みが土砂や有機物を捕捉
石組みに沿って草本が定着した。

2019 年からカソマブグーで取り組んでいる新試験地は、平地と傾斜地の 2 ヶ所に設置しています。平地の試験地 A は昨年ご紹介したので、今回は傾斜地の試験地 B をご紹介します。

試験地 B は、試験地 A と同じく放棄された畑で、裸地化して草もあまり生えず、表面を流れる雨水で浸食が始まっていました。この浸食を抑えるために、石組みを設置し、土砂や有機物を捕捉し、草本等の定着を図りました。効果が確認できたので、今年は、石組みを補強して、土砂が溜まった石組みの上手に在来樹木 3 種を寄せ植えし、チャンガラの直播を行いました。浸食を防止しながら、石組みで捉えた土砂や雨水をうまく利用して、草本の定着と樹木の育成を目指しています。

チャンガラ種子の播種

在来種 3 種寄せ植え

## ■トラオレの目　苗も育つし子供も育つ　トラオレさんが撮影した写真から

◆里山再生の第一歩は井戸作りから

◆苗も育つし子供も育つ

◆家族総出で苗作り

◆日陰の下で苗作り

◆一人で黙々と植える

◆素足で枝打ち

◆シアバターの実がたくさん取れました

◆野武士のおじさん（苗畑の主）

## ■学校林　10 年後の喜び　学校に配った苗木たちは、立派に育ちました

◆木を植える～深い植穴を掘って、水もたっぷりと～◆

◆木が育つ～樹種によってはわずか数年で緑陰が～◆

◆木の手入れをする～下枝の剪定と補植や水やり～◆

◆木を守る～頑丈な家畜除けの柵を設ける～◆

## ■スナップショット

### ◇ぶらさかば in マリ◇

坂場前代表が、首都バマコの郊外やファナの村々をぶらぶら散歩しながら撮影した写真です

マナコロ小学校の子供たち

庭先で糸紡ぎ

並んで杵つき

歩いて町まで

中庭のヒツジの群れ

結婚式に遭遇

## ■植生回復試験で分かったこと

### ◇アリ塚植林◇

シロアリのおかげで、土壌が耕されていたことが分かった

きっかけ：シロアリのアリ塚の周りには、なぜか木が生えていることに注目
植えてみた：アカシア・セネガルを植林、アリ塚の周りの土は柔らかで掘りやすい！

アリ塚にアカシアを植えてみた

根の張りも良く、大きく生長

緑が美しい旧試験地の様子

シロアリを干して家畜の餌に

### ◇積み石◇

荒廃地再生に有効だが、野火の多い地域では逆効果になることも

積み石に枯れ葉など有機物が堆積

積み石は土壌の流亡防止、雨水の浸透、有機物の堆積などに効果が認められたが、野火に襲われると堆積した枯れ葉などが燃えるため、逆効果となることも多い

⇩

延焼防止のため、枯草の上に土を被せる

## ■昆虫が作る土壌

### スカラベ（タマオシコガネ）

スカラベは、タマオシコガネやフンコロガシなどと呼ばれる昆虫です。乾燥地に多く生息しており、エジプトでは神格化されているほどです。大型の種類ではカブトムシの雌くらいもあります。
糞虫と呼ばれる種類に属しており、動物の糞を丸めて団子を作り、その中に卵を産み付ける習性を持っています。マリでも主に雨期の前後になるとあちこちで糞団子を転がす姿を目にします。
スカラベの親虫は、卵を産んだ糞団子をコロコロと転がして行き、地面に穴を掘って埋めます。孵化した幼虫は、地下に埋められた動物の糞の中で成長します。乾燥したマリの地中には、スカラベの糞団子がたくさん埋まっているのです。

## Information

### 募金・カンパにご協力下さい

日頃からサヘルの森の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
日本同様、マリでも新型コロナウイルスの感染が続いていますが、ワクチン接種率はわずか数パーセントに留まっています。
しかし、マリ人スタッフを初め、実践者や多くの協力者によって活動は続けられています。彼らの止まることのない活動に、ご支援いただけますよう、お願いいたします。

### 会員募集中

サヘルの森に入会されますと、年数回、機関紙『サヘル』のほか、報告会等のお知らせが届きます。

| | | |
|---|---|---|
| 一般会費 | 年 | 5,000 円 |
| 維持会費 | 年 | 20,000 円 |

サハラ砂漠南縁・サヘル地域での里山再生活動を継続的に支援いただくためにも、ぜひご入会下さい。

### 募金・入会のお申し込みは…

振込用紙に
①住所
②氏名
③電話番号
④送金内訳（会費、募金など）
⑤領収書の要不要
を明記の上、郵便振替で下記口座にお振込みください。

【郵便振替口座】
00170-6-115054
サヘルの森

特定非営利活動法人　サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3　アーベイン平本 403
TEL：042-721-1601（留守電対応）
ホームページ：http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/
E-mail：sahel-no-mori@jca.apc.org

機関紙『サヘル』ファナ特集号

発　行：2021年 10 月 29日
編　集／発行人：高津佳史

注）FAX は廃止しました